

平成28年度 第3回府中市保健計画推進協議会会議録

日 時：平成29年2月16日（木）
午後6時45分～8時30分
場 所：保健センター3階健康教育室

- 出席者 委員：赤須 文彰（医療・府中市医師会長）
飯島 智広（行政・多摩府中保健所 保健対策課長）
田中 勝彦（企業職域・むさし府中商工会議所、(有)柏屋取締役社長）
藤原 佳典（学識経験者・
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所）
森本 幸子（公募委員・市民）
渡辺 信 （医療・府中市歯科医師会）

事務局：川田福祉保健部長
三ヶ尻計画推進担当理事
横道健康推進課長
福田健康推進課長補佐
福嶋成人保健係長
神田保健師（成人保健係）
島村保健師（成人保健係）
石堂保健師（成人保健係）
中村栄養士（母子保健係）
渡邊歯科衛生士（成人保健係）

※協議会設置要綱大6条の2項により委員6名中6名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

- 進行 福田課長補佐（事務局）
- ・開会宣言
 - ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

- これより議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし
【会長】次第のとおり進めていく

4 報告事項

(1) 平成28年度元気いっぱいサポート事業実施報告について

【事務局】平成28年度元気いっぱいサポート事業について資料1に基づいて説明する。

元気いっぱいサポート事業は今年度、3つの分野に分けて実施した。まず、表上のサポーターの活動（参加型）は、元気いっぱいサポーターを含む多くの市民に参加してもらい、健康づくりのきっかけにしてもらうという事業の位置づけである。からだスキャンは平成27年度に初めて実施し、好評だったため、今年度も実施した。測定の内容を見直し、足の指の力や手の握力を図る機会を初めて設け、土曜日に開催することもあるためお子様も一緒に来場することを想定し、子どもも測定できる機会を提供した。参加者数は、1日目153名、2日目が102名でした。次の健康教育や運動実践事業は、平成27年度と同様の内容として実施した。3つ目にある健康ウォーキングマップリニューアル記念「ノルディックウォークイベント」は、今年度、新規事業として実施した。昨年度にリニューアルした健康応援ウォーキングマップを活用し、ノルディックウォークを体験するというイベントである。平日ではあったが、晴天に恵まれ、61人の参加者が総合体育館の周辺コースを歩き、参加者同士の交流を深めることもできた。

表2番目のサポーター活動（養成型）事業については、上の参加型事業とは異なり、元気いっぱいサポート事業を企画運営していくために必要な人材育成や事業の分析などを実施した。まず、サポーターの活動調査として、今年度初めて団体に対しても活動調査を実施した。個人、団体共に調査結果はのちほど説明する。次に元気いっぱいサポーターの活動紹介としては、できるだけ多くの機会をとらえて、写真とともに紹介記事を掲示し、サポーターの認知度を上げるように努めた。また、ノルディックウォークイベント実施後に、イベントに協力いただいたサポーターと意見交換会を実施し、参加者のサポートや運営に協力してもらったうえで、今後の事業の運営について意見を出してもらった。最後のサポーター養成講座は、ソーシャルキャピタルの醸成がいかに健康づくりに重要であるかを講義形式で学ぶ回と、市が今後推進していきたいと考えている、ノルディックウォークの実践の2回シリーズで実施した。参加者からは、市の取組やソーシャルキャピタルの醸成の重要性についてよくわかったという声が寄せられました。

表の下の段の情報提供の取組では、市の健康づくりの取組は、これまで広報やホームページなどでお知らせしてきたが、今年度から総合的にまとめた「健康応援ガイド」を全戸（約12万5千戸）に配布した。中に、がん検診の申込書も折込み、検診等の受診も促進できた。

【事務局】引き続き「元気いっぱいサポーターの取り組みに関するアンケート結果について資料2、資料3」で報告する。

資料2平成27年度に続き2回目の実施となる。サポーター登録数は平成27年度600名、平成28年度1,500名となり年間で400名ほど増加した、アンケート回収率は、前は5割を超えていたが、今回は4割弱であった。アンケートの目的は、前は初回なのでサポーターの活動状況を知るために行ったが、今回は少し踏み込んだ内容で、市と協働できるサポーター

ターの発掘を目的に行った。アンケート送付時には、「サポーター通信」も同封し、具体的な活動や市としてサポーターと協働したい内容の紹介も行った。集計結果については、「サポーターとの協働」を視点を報告する。【問1】健康状態は、①よい②まあよいと合わせて8割(85%)で昨年度とほぼ変わらない状態だった。【問2】地域におけるボランティアや趣味の活動については、②「文化的な活動」と⑤「高齢者を対象とした活動」が多かった。また⑩「参加していない」も多く3割を超えていた。【問2-2】「現在ご自身で活動している健康に関する取組で他の市民に紹介したいか」については、公共のものと私的な活動の両方があった。これらの内容の一部をポスターにして保健センター3階の掲示板で紹介している。【問3】サポーター活動の満足度については、①「満足」から②やや満足、③「特に不満はない」までで8割で、前回の結果とほぼ変わらなかった。理由としては、サポーターの登録をしていたことを忘れていたので、アンケートや通信をもらい活動がよく分かったという意見や、不満の方からは、いつサポーターになったのか分からない、というような意見もあった。【問4】今後、具体的に活動してみたいか、については、①「思う」と②「今は出来ないが、いずれやってみたい」を合わせると6割(50.6%)で、「いずれやってみたい」という方も4割近くおり、いつでも参加できるように、継続した情報提供の必要性を感じた。【問6】企画運営に興味があるサポーターは3割(29.5%)で、前年度より6%ほど増加した。【問6-1,2】では、「からだ★スキャン大測定会」「ウォーキングイベント」「サポーターリーダー」の3つ具体的な活動について、興味があるかを尋ねた。この結果は、実際の活動に参加していただくきっかけとなった。【サポーターアンケートからつながる活動】としては、①からだ★スキャン大測定会に興味があると回答した方40名のうち70歳以下の13名の方に電話連絡し、新たなサポーター2名も含め、当日は7名のサポーターに運営の協力をして頂いた。②ノルディックウォーク大会では、8名のサポーターの協力が得られた。③サポーター養成講座は、チラシ募集の他に、サポーターアンケートで返信があった方へ個別通知を行った。申込者75名の半数が個別通知を受けての申込みであり、ポイントを絞った周知の効果も実感した。

【まとめ】として、運営協力の得られたサポーターとのつながりを大切に、サポーターが無理なく自主的に活動しやすい市の支援体制を考えていきたい。また、リーダーについても、研修等を重ねていく中で、発掘していきたい。課題としては、年齢層が高めなので若い世代の参加していただける仕組みも検討が必要と思われた。個人の結果は以上。

引き続き資料3「元気いっぱいサポーターの取り組みに関するアンケート結果(団体)」について報告する。平成18年度から登録されたままになっていた31団体の活動状況把握のために、今年度初めて行った。返信は14団体(45.1%)で、そのうち回答が得られたのは9団体でした。その他5団体は廃止希望でした。回答のあった9団体の内訳は、歯科医院、薬局、自主グループで、期待していた一般企業等からの返信はなかった。

【問1】団体登録をしたきっかけで最も多かったのは「メンバーの健康管理のため」55.6%でした。【問2】活動の満足度は、1団体以外は①満足～③特に不満はないとなった。【問3】地域の催しへの参加状況で、具体的にはお祭りなど地域のイベントへの参加が主な活動となった。【問4】団体での世代間交流は、どの団体も比較的あるようだった。【問6】地域にお

けるボランティア活動等については、⑧生活習慣改善のための活動が主な活動であることが分かった。ただ、【問 8】他の団体との健康づくりに関する活動は行っているところが少なく、団体内での活動が中心とわかりました。【問 1 1】企画運営への興味は、9 団体中 7 団体は「③わからない」との返答で、登録から時間が経っていたということもあると思うが、企画運営まで携われるところは今のところないということが今回分かった。今後、サポート事業を展開していく上で具体的に協働できそうな企業等には、こちらからアプローチして積極的に見つけていきたいと思っている。以上です。

【委員】 サポーター個人と団体の調査結果について、何かご意見コメント等ありますか。

【委員】 個人のアンケートのまとめのところで出た、サポーター養成講座では私も講師として参加したが、高年齢の方が多かった。どんなに検討しても日中あいている方というと高年齢の方になるのはしかないとは思いますが、もう少し中年世代、青壮年世代の方をターゲットにしないと、高年齢の方だけだと、長い間活動して頂く、展開するのも厳しい部分がある。若い世代には、開催日を土日にするとか、夜間にすることも必要だろう。

我々もイベントでちらし等を作り PR する時、若い人向けと年配の方向けと 2 バージョン作ることがある。どうしても若い人は、高齢者の方をイメージするようなほのぼのしたチラシでは、これは高齢者向けなのか、ということになる。垢抜けたというか、カタカナがたくさんは入ったようなものにする、若い人向けには良い。高齢の方は若い人の中に入っていけるが、若い人は高齢のイメージするところにはなかなか行かない。その辺の広報の仕方なども工夫されると良いのではないか。

【事務局】 新しいこの保健計画第二次を策定した最初の協議の時に、元気いっぱいサポーターをどうしていくか、委員の自分でも何だかよく分からないという意見を、各委員の方々から頂いて、今までは登録だけを単に進めて、それで手一杯だったところがあったが、先生方にお知恵を頂き、企画型の測定会やノルディックウォークという新しいイベント等、仕掛けの中にサポーターを巻き込む事ができたことは、主管課にとって大きなプラスだったと思う。アンケートの中で見えてきた部分を含めて、サポーターへ積極的にアプローチするスタートと思っている。来年度以降は、サポーターの裾野を広げるということは、もちろんだが、養成講座の位置付けも充実させていき、意識させていければと思っている。

【委員】 実際参加していかがでしたか。

【委員】 とても良い雰囲気よかったです。高齢の方も多かったが、なによりも男性の参加が多かった事がとても印象的で良いと思った。天気も良く、参加者がとても満足していた。参加者への非常食等のお土産もあり、良かった。また、ただのウォーキングではなく、今までやったことのないノルディックウォークということも良かったのではないか。

【委員】 課長が先ほど懸念を持っていたが、問題はこの先どうするのかということ。単にイベントで終わってしまうと意味がないし、単に個別でノルディックを個人的にやる人が増えるだけでも意味がない。いかにその方々に主体的に、自主的にやって頂けるかということで、あまり間を開けてしまうと熱が冷めてしまうので、ある程度間髪入れずに、「あれや

っていきましょう」「集まって何かやりましょう」というアクションは必要だと思う。とはいえ、その時にどういう方向に向けてというビジョンがないと、単に集まっただけということになってしまうので方向性を見つける必要があると思う。方向性のヒントはありますか。

【委員】今回のノルディックウォークでは、道具を貸し出してもらえた。自分の持っているものでできるか、という質問をしている方もいたので、自分で買って参加する、とか誰かと一緒にやるなど、一人でやると目立つので、仲間が何人かいれば道具を買ってみようかなとか、買わないのであれば1ヶ月お試して貸し出すようなイベントがあれば良いと思った。

【委員】小グループでも出来ないとなかなか長続きしないですね。グループでいけば目立つし、関心を持つ方も出るでしょう。

【委員】意識しているせいか、よく見ます。

【委員】ほかにご意見はありますか。

【委員】アンケートを年に1回送ることですが、サポーターの方々が何を考えているのか探るといことも然り、スリーピングしている人を起こすという意味でもよいと思うので年に1回はやると良いと思う。それと、団体のところで、返答のなかった22団体をばっさり切って、大丈夫なのか。

【事務局】始まった当初、団体登録して頂くのに、担当の職員が企業先等へ訪問してご説明し登録して頂いたと聞いている。今回は郵送というところで、今後もう一押しするかどうか、それもかなり年数も経ってしまっているもので、現時点では切るという着地まではいっていない。とりあえず回答して頂いた方を守りつつ、というスタンスでいるのだと思う。ただ、企業の中での健康づくりの取り組みということでは、今のプレミアムフライデーの話ではないが、ある程度重みを置いて話を聞くなど、実情を踏まえていかないといけないだろうと課としては考えている。アンケートという形ではなくても、声かけをさせていただきながら次に繋げていければと思う。ただ企業への継続したなにかいうコマについて、実は個人のイベントでも、職員の事前の準備から当日の運営までなかなか慣れない中で、サポーターの育成の目線で市民と相對するというスキルまでは難しい。その中で、企業の方へ発信していく難しさも感じているので、先生方の意見を伺いながら、我々の育ちも見つつやらないと次に繋がらないのかなと感じている。

【委員】1回目のイベントというのは、どうしても住民との信頼関係もないので、職員の方が手取り足取りやらないと出来ない部分がある。そこで少しでも、スタッフの方をサポートしてくれるようなサポーターを見つけていければ、2回目は、楽になる部分が出てくると思う。それを繰り返していくのがソーシャルキャピタルが育つということだと思う。今回は1回目なので大変だったが、逆にその経験を活かし、どの部分を担って頂ければ楽か等、反省会をして、出来るところ、出来ないところを整理すると次に繋がると思う。

企業についてだが、ほとんどが特に不満がないという回答であるが、いろいろやって満足しているから不満がないのか、何もやっていないので波風が立ってなく不満がないの

か。おそらく不満になる以前の問題だと思う。ソーシャルキャピタルとは、『お互い様』という事、お互いメリットがあって繋がっていく、ということなので、企業がこの元気いっぱいサポーターに参加するとどのようなメリットがあるのか、というところを突き詰めていかないと、どちらかがお願いして参加してもらいだけだと形だけになってしまう。企業の業種によってもメリット、デメリットが違うと思う。例えば商店街などでは、こういうキャンペーンが入るとお客さんが少し増えたり、自分たちの PR したい商品なり事が広まったりという、ビジネス面でのメリットであったり、また公的な機関であれば、純粋に職員が健康になれば、ということであると思う。相手が何を望んでいるのかを思考されることが大事だと思う。話す中で保健部門と組むとこんなに良いことがあるのか、と気づかれることも多いと思うので、アンケートを踏まえ、もう少し踏み込んで行かれると良いと思う。

【事務局】企業のところでは、国でもいまオリンピック、パラリンピックの動きや、たばこの分煙、禁煙問題等、サポーターというまるやかな動きでない側面もあるので、保健所の意見も聞きつつ、国の動向等も色々踏まえて進めていく部分も出てくるのではないかと思っている。

【委員】たばこの関係とは？国会では、せめぎ合いしているのですが。

【事務局】市議会でも今年度、スモークフリーキャラバンという団体から各市一斉にたばこについての陳情要望が出されていた。国や都の具体的な方針が示されていない中で、府中市市議会としては、全面禁煙を進めるとか、建物内をどうするというのを早々に決めることについて、府中市だけではどうすることも出来ない和不採択となっている。どの市も採択した市は数市で、後は国や都の動きを見定めた上で今後検討していく、という意味合いで不採択になっている。今後、市の方にも色々な団体が動いてくる中で、国や都の動きや、たばこは嗜好品という位置付けの中で、市として定めていく方向を、協議会の中でご意見を頂いていきたい。

【委員】東京都医師会も会長がその方面に力を入れて、国にも働きかけている。今回はいけるかと思ったら、反対が起きてなかなか法案が通らない。市としてやれるのは、市庁舎の中。一步外に出れば、ね。

【事務局】嗜好品ですので、庁舎内は全面禁煙と言えるが、吸う方の為に吸えるスペースも遺しておかないとならない。直接繋がりはないが、たばこ税など巡り巡って歳入になるという兼ね合いがある。嗜好品ということで、吸う方の権利もある程度考えていかないとないという厳しい側面がある。

【委員】結局、市としては何も行動できないということですね。

【事務局】まだ、様子見というところです。

【事務局】一つの自治体だけでというよりは、広域として、都のご指導を頂きながらやらざるをえない。

【委員】東京都自体は、国の動きを見てから動くのか。

【委員】国では法整備に向け、色々議論を深めているところ。都では、その辺を注意深く見

守りながら対応していきたいと考えではないかと思う。ただ、受動喫煙防止に取り組むということは言われていて、先ほどご本人が吸う場合は嗜好品と言うことでしたが、吸わない方が受動喫煙をしないという点では、健康課もすでに普及啓発していると思うが、今後でも取り組んで行くと良いと思う。

(2) 平成28年度構成事業評価について

【事務局】資料4に基づいて説明する。

元気いっぱいサポート事業の構成事業56事業の内の一つとして、がん検診について報告する。平成27年度評価としては、5大がん全て受診率は微増している。健康応援ガイドを初めて作成し、検診の大切さ、申込みのスケジュール等を掲載し、がん検診をPRした。今年度は受診環境の整備として、各定員を1割増やし、健康応援ガイドを全戸配布、申込みを往復葉書から葉書に変更、希望日を聞いて先着順で検診を受け付けるなど、大きな変化があった。そして環境整備のため、有料化とした。(胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がん検診は、自己負担金500円、生活保護受給者は無料)。有料化についての大きな混乱はなかったが、検診スタートが通常より3ヶ月遅く開始したり、健康応援ガイドを全戸配布していても認知度が低かったりで、申込み状況が伸び悩んだ。

来年度は、健康応援ガイドの周知を徹底し、広報で定期的に検診を呼びかける等、受診率アップを目指します。

【委員】ご意見、ご質問はあるか。

【委員】受診率のところで、分母はどうなっているのか。

【事務局】この数は、40歳以上のくくりで、さらに、市が行っている検診を受ける方、会社等が行っている検診を受ける方が様々いる中で、人口の内、自治体の健診を受ける方がだいたい何割くらいいるのかというのを掛け合わせる計算式がある。その計算式で出た数を分母、実際に受診した数を分子にして出している。その掛け合わせた件数については、26市はほとんど同じなので、近隣市との比較にはなると思う。

【委員】ずいぶん少ないという感想です。

【委員】40歳以上は毎年送っているのか。

【事務局】そうではない。基本的には自分で申込をするのが前提。ただそれだけでは受診者が伸び悩むので、乳がん、子宮がん、大腸がんについては、一定の年齢の方に、受診勧奨もしている。

【委員】今年初めて、胃がんと大腸がんの手紙が来た。料金も安いし、ああいう物が届くと受けるし、良いと思った。

【事務局】府中市の受診率だけが低いのではない。この圏域6市の中で、それぞれの市で若干の差はあるものの、都の示すような受診率50%に近いような市はまずない。府中市は、女性がんは割と高め、肺がんが低めです。これは医療機関との定員や実施期間の問題、対象者選択の問題がある。

【委員】相当低いので驚きました。

【委員】微増した理由はなんでしたか。

【事務局】健康応援ガイドを全戸配布し、希望日を聞いて先着順で検診を受付けたこと。

【委員】自分のクリニックではどんどん検診を進めている。早期発見が大事。この数字だと、残念。もう少し上げてあげたいと思う。勧奨の仕方が変わると思う。

府中市医師会は、特定健診の中で、肺のレントゲンについては、多摩総合医療センターの呼吸器の先生とダブルチェックしている。肺がんについては、特定健診でも出来ていると思うが。

【事務局】この数字は、喀痰検査まで受診した人の数の受診率。実際は喀痰までは行かなくても、50%以上受診している特定健診での胸のレントゲンがあるので、それらを入れるとある程度のスクリーニングは、府中市では出来ていると思う。

(3)「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査報告について (資料5)

【事務局】本調査は、平成27年度中に実施した。3852人から回答得て、現在、当協議会会長の藤原先生が所属する、本年度東京都健康長寿医療センターで分析している。結果の見方として、年齢層は若年者(18~39歳)、中年者(40~64歳)、高齢者(65歳以上)として集計している。本日配布している資料は単純集計の結果で、これをもとに現在クロス集計をしている。例えば、問2「いつもの睡眠で休養が十分とれているか」、と問5「最近2週間のあなたの状況」をクロスした結果、男女ともに睡眠・休養が取れていない群は、精神健康も低い割合が高いことが見えてきている。また、問1「自身の健康状態をどのように感じているか」、と問5「最近2週間のあなたの状況」をクロスした結果、健康感が低い(健康ではない)群は、精神健康も低い割合が高いことが示されている。その他としては、問1「自身の健康状態をどのように感じているか」と問4「世帯の合計収入」をクロスした結果、収入が高い群ほど健康(とても健康、まあ健康)な割合が高いことが示されている。単純集計をもとにしたクロス集計については他にもいくつかの視点でまとめている。全体的な分析については3月末までにまとまる予定なので、来年度1回目の協議会において、分析結果を総合的に報告できると考えている。以上。

【委員】全体的に、身体的な健康と心の健康と経済的な問題は、WHOでも言っている通り基本的に同じような傾向を示す。府中市だけではなくどこの地域でも同じである。経済的にゆとりのない方は、食生活も偏り、運動する余裕もなく、人との交流範囲も狭まるということで諸悪の根源は社会経済的な要因ということは否めない事実である。今後このような詳細なデータが出てきたときに社会経済的に余裕のない方の底上げをどうするのかという時に、そういう方は、健康づくりに飛びついてくる余裕もない。予防医学の領域でも個人へのアプローチには限界があるということで、無意識、無関心の方に、どうすれば底上げができるかが課題である。街全体で、環境をどう整えていくのかが大事になってくるということが今回の結果でもちらついているような印象を受けている。サポーターを増やしていくときなども

健康づくりだけでなく、街全体で、底上げする必要があると全国的にもいえると思う。年明けの総括でいいですね。

(4) 府中市食育計画について

【事務局】市では平成22年に府中市食育推進計画を策定しており、現在は平成27年度から第2次計画に基づき様々な取組を行っている。現在の計画は、保健計画とは別に策定しているが、食育は各種保健事業の一環として取り組むものであることから、今後は近隣市や区の例を参考に保健計画の中に食育推進計画を包含させたいと考えている。それに伴い、平成29年度に予定している第2次食育推進計画の中間評価（報告）を保健計画協議会の中で実施し、今後の進め方についてご意見をいただきたいと考えている。

第1次の計画では、当時の保健計画と合わせてライフステージごとに課題や目標値を設定していたが、食育については短期間ではあまり大きな変化がみられず数値での評価が難しいため、第2次の計画では目標値は設定していない。そのため中間評価という名称ではあるが、取組の中間報告というイメージで考えている。主な取組としては、平成28年度は朝食の欠食防止についての普及啓発、食に関わるボランティア養成、朝ご飯レシピを作成しホームページの充実、東京農工大の学生への食に関する意識調査及び食生活相談、世論調査での食に関する調査等を実施した。その他庁内の関係各課でも食育に関する事業が実施されており、年度末に実績を集約している。

中間評価には栄養に関する事業や他市の取組などの専門的な助言をいただけるよう、多摩府中保健所保健栄養担当廣繁様（統括課長代理）にもご出席いただく予定であり、今後の事業の進め方などについてご意見をいただきたいと考えている。宜しく願いたい。

【委員】ご意見ありますか。

【委員】食育計画の委員をやっていたので考えたのだが、世の中が変わってきたのが根底にあって、特に女性の社会進出で女性がすごく忙しくなって、昔は普通に家庭で食べていたごはんが今は、個人のおうちごとに違う。私が今回、離乳食教室で体験したことだが、ごはんから何からすべて買っていた母親がいた。そういうお母さんを作ったのは私たち世代であり、反省した。他の人に聞いても、外食はもちろん、一人分なら買った方が早いと全て購入していた人が親になっている。当然子供たちはお料理している姿を見ていない。食文化が伝わってほしいという思いが強くなった。また孤食が増えている。総菜売り場がこれだけ繁盛するのはニーズがあるからだと思う。それら世の中の変化をしっかりと踏まえて、次世代の人に伝えるものはきちんと伝えていかないといけないと思う。お母さん同士の何気ない会話の中で学んでほしいと思った。子育ての時だけの食育ではなくどの世代の人にもこれから食育は切り離せない事だと思う。

【委員】知識がないのか、余裕がないのか、両方なのか、その辺の原因が分からないと難しいですね。孤食が話に出ましたが、世の中の的には、こども食堂がブレイクして広がっていますよね。あれは、一つの住民主導の流れである。はじめのモチベーションとしては、貧

困家庭や、恵まれない子供たちのためにということであったが、あそこに通っているとそういう目で見られるということになり、一人暮らしの高齢者の方も入れて多世代型の街角食堂みたいにすると、年寄り向けの孤食予防の会食サロンだと敷居が高いが、子供も一緒にいると参加しやすいということになっている。子どもからお年寄りまでひっくるめて参加できるサロンみたいなものを作るのも時代に合っているのかもしれない。最近では、役所が全てお膳立てすると、かえって身動き取りにくいので、住民の動きをバックアップしてあげるとというのが今の流れとしてはいい。こども食堂などの動きに乗っていくのも良いのではないか。色々な取り組みの情報を集めていかれると良いと思う。

2 審議事項

(1) 平成29年度サポート事業について

【事務局】 [資料7-1、2](#)で説明する。

全体的な事業の計画については、平成28年度を踏襲しています。全体の中で、新規に取り組む予定にしている事業は、養成型のサポーターの活動のうち、「元気いっぱいサポーター連絡会」の実施です。サポーター養成については、平成28年度に今年度初めて開催し、意見交換会も複数回実施してきたが、これらを更にひろめるために連絡会の実施を検討している。[資料7-2](#)をご覧ください。事業名は、元気いっぱいサポーター連絡会で、サポーター同士が繋がる場を提供し、サポーターが繋がることで街づくりが推進していくという考えのもとに実施する。対象者はすでにサポーターに登録している方とアンケートや様々な場でサポーターに興味を示していただいた方皆様にお声かけしていきたいと考えている。内容としては、参加型のイベントと研修会の二本立てで考えている。参加型イベントは3回実施予定。サポーターの意見交換会については、今までは市が検討し、サポーターに協力していただくという形だったが、どんなイベントだったら参加したいか等企画の段階から参加していただく形にしていきたい。(2) 研修会は今年度と同様にノルディックウォークの体験会や、研修会の2回予定している。サポーターに期待することは、まずは多くの方にサポート事業に参加していただくための意見を出していただくこと、また、中心になってサポート事業を運営していく人材を育成することを目的として開催する。その他としては、平成27年度からウォーキングマップのリニューアルのために一部のサポーターとの連携を推進してきたが、サポーターの中には、企画、運営に積極的に参加できる方とそうでない方がいることを改めて認識したので、2層構造でとらえることにより今後のアプローチについても検討していきたい。特に、来年度は積極的に企画運営など中心になって活動する層へのアプローチを強化して、養成講座の開催や意見交換会で出されたアイデアの実現化に向けて、重点的に力を注いでいきたい。以上。

【委員】 ご意見ご質問はいかがですか。

私は、いくつかの自治体でこのような養成講座をやっているが、2層あるいは3層構造になっているので、1回、2回だと色々な方が参加するので、そこで振るい分けるのは難しい。もし可能であればリーダー養成講座としては、最低5回くらいのものを用意

して、全部出席出来るとして申し込まれる方は本気でやれる方だと思う。コマの回数も大事だし、内容としては、単に知識を吸収するだけではなく、グループワークや、現場を見に行くなどを入れると、仲間同士が結束したり、本気度が高まる。次回企画するなら、複数回にするなど、熱心な方が集まれるようにすると良いと思う。

(2) 府中市自殺対策計画策定について

【事務局】平成28年3月の自殺対策基本法の改正により、自殺総合対策大綱及び都道府県自殺対策計画並びに地域の実情を勘案して、当該市町村の区域内における自殺対策計画を策定することが定められた。府中市では、平成23年度より自殺対策に取り組んでいる。当初よりゲートキーパー（地域や職場、教育、その他様々な分野において、身近な人の自殺のサインに気づき、その人の話を受け止め、必要に応じて専門機関へつなぐ等の役割をする人）研修を庁内や関係機関を対象に年1回実施、庁内の関係部署との横のつながりを持つために関係機関連絡会を開催、前回の協議会で提出した自殺対策マニュアルを作成するなどの取組を行っている。東京都の自殺対策計画の動向をみて策定をという話も保健所からあったところだが、府中市では来年度策定する方向で進めている。今回の協議会では、府中市の自殺対策計画の骨子をご確認いただき、今後の策定に向けてご意見をいただきたい。

【資料8-1】府中市の自殺対策は、自殺予防やこころの健康に関する普及啓発を1次予防、ハイリスク者の早期発見、適切な支援を2次予防、遺族者支援などを事後対応としたトライアングル状の体系を支援の基本としている。1次予防も2次予防も事後対応も、それぞれつながりを持ち、民間・市民と連携を行いながら、実態把握を基盤として計画を推進していく。

具体的な施策については、【資料8-2】基本理念を府中市総合計画と第2次健康ふちゅう21に合わせて「つながり合い、心豊かに生きていくまち府中」とした。地域のつながりが希薄になっている現代で、一番重要とされるソーシャルキャピタルの醸成が対策の根底にあるという意識で、このような基本理念となっている。自殺対策に対する知識と理解を深め、ライフステージや個々の状況に合わせた決め細やかなサポートの仕組みをつくり自殺で亡くなる人を減らすことを基本目標としている。計画推進にあたっては、自殺のリスク等に「気付く」、「向き合う」、地域や支援が「つながる」、「支えあう」を視点に展開していく。基本施策として具体的な取組み、事業をご覧ください。府中市における自殺等の実態把握では、庁内で行っている自殺未遂者既遂者調査や市民アンケート等で把握していく。1次予防の普及啓発は、自殺対策強化月間で図書館に特設展示、企業紙にコラムを掲載する等行う。こころを豊かに生きるための支援としては、現在、市内中学校で性教育の授業を行っている中で、命の大切さを学ぶ取組や困ったときは大人に相談すること等を広めていきたいと考えている。

1次予防のIV「生活基盤に関する取組」とあるが、安心して生活できる地域や制度などを啓発していく内容としたいと考えているため、どのような表現が良いかご意見いただきたい。2次予防では、ハイリスク者と若年層の支援として、今後医療機関、学校との連携を強化していく。また、身近な地域でのゲートキーパー育成として、市民向けのゲートキーパー研修を計画している。事後対応は、相談機関、他自治体のネットワーク強化を行う予定。

自殺対策計画は、第2次健康ふちゅう21と同じ策定期間で実施を考えている。平成32年度を目標に、**資料8-3**の年次計画で実施を予定しています。医療機関との連携を課題のひとつとしているため、来年度は個別の支援を通じて医療機関とのつながりを広げ、平成30年度には救急医療期間との情報共有ができるよう対策の推進を考えている。基本施策や取組、年次計画についてご意見いただきたい。

【委員】 ご意見ご質問はあるか。都や広域の動きはどうか

【委員】 確認してみないと分からないが、都は来年度から計画を作り、制定自体は30年度だったかと思うが、府中市はすでに計画が出来上がっているということか。

【事務局】 計画は平成29年度中に作る。現在は、計画のもととなる体系図を作成途中。

【委員】 確認ですが、府中市も他地域と同じように、一番多いのは中年の男性の自殺という理解でよいか。1次予防も、2次予防もターゲットとなる年代層等によって対策が変わると思う。特に働き盛りの方の男性の自殺は、経済苦や職業上のトラブルで負債を抱える等、お年寄りには健康や孤立が多いだろう。先ほど生活基盤の取り組みをどう表現するか、と聞かれていたが、中年向けの対策には一番核になる部分だと思う。秋田県のように町ぐるみで自殺対策に取り組み、ある程度の自殺率を抑えている所もあるが、結局、経済苦を抱えている方に、抗うつ薬を与えるなどの医療的な介入をしても、結局原因が取り去れない限りは、だましだまして押さえているだけのこと。今、国の方の施策も変わってきているし、連帯保証人になったものを解消できる仕組みや、中小企業の相談などで社会的な部分で解決し、死亡率を抑えるということを成功されている所もある。ターゲットによって保健部門だけはカバーできないものも関わってくると思うので、うまくやっている先進事例などを学ぶと良いと思う。個人的によく知っているのだが、小平に精神神経センターというものがあり、その中に、去年から自殺対策総合推進センターが一つの部門としてでき、自殺対策を中心的に行ってこられた秋田大学の名誉教授の本橋教授がセンター長として就任されている。地域での1層、2層、3層の重層的な対策で実践の経験もある方である。せっかく近いのでそのようなところとリンクしながら、総合戦略でやっていくことも大事だと思う。計画書の文言をいじるだけでは根本の解決にはならない。抜本的にどうするかというところを専門機関と関わっていく必要があると思う。

【事務局】 自殺対策計画の目標は、自殺の数を減らすことからぶれようがない。府中市の取組みとしては、自殺未遂者既遂者への聞き取り調査と事例検討を積み重ねてやっており、その調査、検討で把握したことを、市としての自殺対策の足掛かりにしていきたいと考えている。また、職員の関わりだけでなく、個々の背景も多岐にわたるので、事例検討の調査のとりまとめを慎重に行い、府中市は自殺を防げる市だということをスローガンに、取り組んでいける計画につなげていきたい。都で出される計画もあるが、地域性が出てしかるべきものだと思うので、調査結果も踏まえたものを作成していけたらと思っている。

【委員】 大元になる自殺の原因は、経済的なものが多いのか、心のバランスを崩してのものが多いのか、どちらか。

【事務局】調査で分かっている中では、一番多いのは健康問題である。健康問題、経済的な問題、人間関係など、4つ以上の要因が絡みあっていることが多いと言われている。どの要因が一番大きいかは図りにくい。

【委員】世代によってもバランスが違うでしょう。

【事務局】世代での違いはあると思うが、そこまでの分析は出来ていない。

【事務局】自殺未遂者既遂者の調査の中では、健康問題、家族問題が多かったように思う。調査が聞き取りのため、本当にそうなのかが分からないが、経済的な問題に関しては、庁内の生活困窮者の対応をする部署との連携も取れてきており、多重債務の情報を共有できたり、家計相談も行っているなので、そのような心配のある方は繋ぐという傾向ができつつある。

【委員】色々な関係機関と繋がらないとならない。高齢者だと地域包括ケアシステムの中でつながる必要があるし、子育て中のストレスだと、子ども支援の方と繋がる必要がある。一つの部門で代表できる話ではない。おそらく未遂者が何度も繰り返すのは、根本の原因が解決出来ないからだと思うので、その世代や属性によってどこが違うのか出来るだけ把握して、関係機関と繋がる必要がある。全てに共通するのは、自殺予防は、ソーシャルキャピタルの分野で効果が出る領域である。自殺しようかという人は、いきなり医療機関や行政機関に相談にはいかない。だれがゲートキーパーとなるか、自殺やうつとうつことを口に出して言える地域であり、人間関係だということを知らしめて行くことが大事。それがまさしくソーシャルキャピタルの一つである。

【事務局】市ではこれまで、職員向け、関係機関向け、市民向けのゲートキーパー研修を複数回実施している。どのような方が自殺しやすいのかなどの事例を学んだり、話の聞き方をロールプレイで実習するような研修もあった。様々な方面からアプローチできる、また、自殺の危険性があるのではと気付いていただけるような研修を行ってきた。

【委員】繰り返すが、自殺する前は、みんな、うつ病、あるいはうつ状態の方が大半である。その状態になる原因が何かということを徹底的に調べ、根源を断つことが大事。

【委員】難しい問題。ケースバイケースで対応する必要がある。市の検討を祈ります。

【委員】以上です。それでは、事務局にお返しします。

【事務局】ありがとうございました。来年度以降については、詳細が決まり次第連絡する。

【部長挨拶】本日は長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

市民の健康を守る施策の重要性については、本市としても、市長も常に力を入れているところである。また、市民の要望を毎年何う市政世論調査においても市民の健康管理の施策については、常に上位にあがっている。今後も高齢化がますます進行する社会において、この施策については更なる充実が求められている。本協議会の委員の任期は1年と規定されておりますが、市といたしましては引き続き来年度もみなさまに依頼させていただき予定でございます。市の健康づくり施策の発展のために今後ともご協力いただきますよう、よろしくお願ひします。

以上を以て、協議会を終了する。